

原子力規制委員会

田中俊一委員長殿

平成28年4月17日

村田光平

(元駐スイス大使)

拝啓

3月25日付メッセージで地下水の放射能汚染対策をお願いした村田です。

熊本・大分の連続大地震を前にして地震大国、津波大国、火山大国の日本に原発を導入したことは「巨大な過ち」であり、速やかにこれを改める努力を始めるべきだと改めて痛感いたします。

「安全神話」により日本に54基もの原発が存在するに至りましたが、福島事故により、この神話が否定されたことにより原発の存在そのものが根拠を失ったこととなります。事故の発生を想定し住民の避難計画の策定を求めることは本来あってはならないことです。再稼働などもってのほかで稼働中の川内原発2基の運転停止を求めてきた所以です。

現在進行中の熊本・大分の大地震の状況を前にして川内原発の運転を継続することは「許されない無神経」そのものと見られております。この状況下での原発過酷事故の発生は国家そのものの存立にかかわる大惨事です。この可能性は「川内の即時停止を求める有志の会」が16日、九州電力に要請した通り即刻ゼロにするべきです。生命重視の立場から、取り返しの付かないことが起こるのを回避することを何よりも最優先すべき時期が到来したと考えます。

福島事故に由来する放射能汚染の内外への拡散を止め得ない地球環境加害国と見なされるに至っている日本が直面するのは国家の危機です。これを電力会社の経営危機として対応し、再稼働を認めることなど最早国民も国際社会もいつまでも許す筈がありません。

失礼の段、どうかお許し願います。

貴委員長のご指導とご健闘を心からお願い申し上げます。

敬具